

# 身近なことから始めよう ごみの減量と再資源化を

私たちが普段、当たり前のように捨てているごみ。1人が出すごみの量は少しでも、大館市民全体の量となるとどうでしょうか。

ごみを減らすには、消費者である市民の皆さんの力が必要です。ごみを分別する、 unnecessary 容器包装を避ける、リサイクル商品を購入するなど、今すぐにできることから始めましょう。

問 生活環境課

☎49 311(内線247)



家電リサイクル工場

## 年間約6億円の税金

市のごみの排出量は、年々わずかながら増加傾向にあります。

平成14年度の大館市のごみ排出量は、家庭系・事業系合わせて約2万8千トン。市民1人当たり毎日1,148グラムのごみを出している計算です。

ごみ処理の費用は税金でまかなわれています。何とその額は、年間約6億円(1世帯約2万5千円)にも上っています。

## 1人1日100グラムの減量で 年間約6千万円の節税

市民1人ひとりがごみの減量に毎日100グラム取り組むと、年間約6千万円の節税となります。その節約された税金は、福祉や教育のために使われるなど、私たちの暮らしの向上につながります。



使い捨てから、  
リサイクルへ

市長リポート

No 248

21世紀は「環境の世紀」と言われています。これまでの大量生産、大量消費の時代から、資源循環型社会へと、みんなで力を合わせて方向転換しなければなりません。

市では環境問題にいち早く着目し、まず自らが環境マネジメントシステムに関する国際規格のISO14001を取得しました。そして、リサイクル産業を大館市の重要な産業の1つとすべく取り組みを強化しています。蓄積された鉱山技術と施設を活用した、家電リサイクル工場が操業しており、土壌の洗浄事業も行われています。農業分野ではコンポストセンターを設置し、鶏ふんや食べ残しなどの生ごみからたい肥を生産し、それをまた農作物に利用するというリサイクルの輪ができました。製造業や農業などから廃棄されるプラスチックと木材産業を融合させた「廃プラスチック利用新建材製造事業」における新企業が松原地内に立地し、今年度中の操業開始を目指しているなど、リサイクル産業には多くの企業が参画してきています。

基幹産業である農業や林業も、地球環境保全のためには大切な役割を担っています。秋田杉などの樹木や米などの農作物は、二酸化炭素を吸収して大気浄化をしているからです。まさに大館市は、地球環境を守ることで産業が発展し、雇用の場が確保できるという「21世紀型」の都市を目指しています。

子や孫に誇りを持って引き継ぐことができる郷土大館とするために、市でも努力を続けます。市民の皆さんも、環境への配慮とリサイクルについて、今一度考えてみてください。そして、毎日のごみを減らすことから始めましょう。

小畑 元